

3年 図画工作科学習指導案

授業者 下出 菜摘

1. 題材名 「もけもけ島のもけもけモンスター(もけモン)に変身しよう！」(A 表現(1)イ工作)

2. 題材の目標

- 裁断した紙、その紙をくっつけてできるもの、その他の材の特性とその可能性を生かして、主題を表現することができる。
[知識及び技能]
- 素材感や材を組み合わせて生まれる可能性を基に主題を見つけ、材とかかわりながら、発想を広げて、表したいことを表現する方法を見出し、試行錯誤しながら主題を表現しようとしている。
[思考力、判断力、表現力等]
- 材の魅力や材を使った表現の可能性にふれながら、主題を表現していく過程を楽しみ、主題がかたちになっていく喜びを味わっている。
[学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級には、身近なものを使用して、自分たちの生活を楽しく、豊かにするものをつくることが好きな子が多い。セロハンテープを丸める、折る、何重にも巻きつける等して、生き物やキャラクター等を立体的につくったり、付け爪や、耳飾りといった装飾品、ごっこ遊びで使用するミニチュアグッズ等をつくったりしている。また、戯い遊びで使用する小道具をテープ類とティッシュを組み合わせてつくったり、野球で使用するバッドやベースを段ボールでつくったりする等、遊びに必要な道具をつくり、生活の中で活用している。このように、子どもは、身近にあるものの特性やよさに気付き、つくりたいものに最適な材を選んで、ものづくりに生かしている。その中には、自分を投影したオリジナルキャラクターを制作し、自分のおもいをかたちにして表現することを楽しんでいる子もいる。おもいをキャラクターとして具現化することで、そのもの自体に愛着をもち、生活のあらゆる場面で自分を象徴するアイコンとして活用している。これらの姿は、今ある生活を彩り豊かにしていくことにつながるだろう。

本題材「もけもけ島のもけもけモンスターに変身しよう！」は、今回扱う材の素材感である「もけもけ」と「島」「モンスター」「変身」が組み合わさっていることで、子どもの興味と想像力をかき立て、「こんな風にしたい」、「こんなモンスターになりたい」といったおもいを引き出すことができると考えた。主な材として裁断機で裁断した紙（シュレッダーダスト）を扱う。前題材「もけもけ」では、裁断した紙を材とした造形遊びをしている。そこで、同じ「紙」でも、裁断されることによって素材感が異なることを味わい、材の面白さや魅力、材のもつ可能性を見出しながら、材との一体感や素材感を生かした楽しみを見つけた。そこで今回は、前題材を生かした「もけもけモンスター」に変身するためのものづくりに取り組む。裁断した紙だけでは、固定ができず、ある程度の形になったとしても不安定である。そこで、裁断した紙をくっつけるものとして、粘着カーペットクリーナーのテープ（以下、粘着シート）及び、両面テープを使用していく。粘着シートの土台は紙素材であるため、粘着シート同士をくっつけて面積を広げることや、手でちぎったり裂いたりして形状を変えることも可能である。そのため、表現したいものの部品としても活用でき、表現に幅が生まれていくだろう。さらに、制作過程では、新たな材として裁断した色付きの紙、レインコート、紙ひもと出会う。材との出会いを重ねながら、主題の表現方法について試行錯誤したり、主題が更新されたりする中で、造形的な視点が磨かれていくだろう。また、今回は、自分が制作した作品を身にまとい、自分も作品の一部となって変身するという、新たな作品の楽しみ方を味わっていく。それは、その子がこれまで見てきたもの、経験してきたことを新たな視点から捉えるきっかけになっていくだろう。

本題材を通して「もの・こと・ひと」との対話から生まれる表現を楽しみながら、造形的な視点を

磨き、主題を表現していくことの喜びを味わうとともに、その子の見える世界がさらに可能性に満ちたわくわくする世界へと変化していくことを期待している。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』～本単元で願う「心の動きを伴う経験によってその子に還るもの』～

第①時では、前題材「もけもけ」でふれ合った材が広がった場に再び足を踏み入れる。「また遊ぶの？」「何するの？」と見通しをもつことが難しいと感じたところで、「もけもけ島」の管理人から受け取った手紙から「昔は、この島に色々なもけもけモンスターがいたが、いつの間にかいなくなってしまい、島がすっかりさみしくなってしまった。2組のみんなに、もけもけモンスターに変身してもらって、島を盛り上げるための、もけもけ変身コレクションを開いてほしい！」という状況を知る。その上で、題材名「もけもけ島のもけもけモンスターに変身しよう！」と出合う。「モンスター？ 楽しそう！ やってみたい！」「コレクションって、ファンションショード的な？」と、様々なおもいを抱くだろう。前題材を通して体感している素材感「もけもけ」には馴染みがあるため、それに加えて、「島」×「モンスター」×「変身」という要素から、子どもたちは一気に発想を広げ、つくりたいもののイメージをもつ。また、「変身」という言葉から「自分がモンスターになるってこと？」「体につけるの？」等の疑問や「すぐそれちゃうから、これだけじゃ無理だよ」といった経験から気付いた困り感が生まれてくるだろう。そこで、身につけ、変身するためには、材を「くっつける」ものが必要であるということに気付く。身近な道具であるのりやボンド、セロハンテープ、両面テープ等が使えるのではないかと考え始めたところで、16cm幅の粘着シート(もけシート)と出合う。粘着シートと裁断した紙がくっついていく様子と、できたものに興味をもち、どんなモンスターにしていこうかと即興的に表現し始める。中には、何枚かの粘着シートを組み合わせて、創発的な表現をしていく子もいるだろう。材と関わる中で、くっついてできたものへの可能性を見出すとともに、これを使えば身につけるものがつくれそうという見通しをもつだろう。

第②時では、題材名と、材とふれ合う中で見出してきた材の特性から、豊かに発想を広げ、主題を見出していく。「島」からその場の風景を想起し、海や空、森や土、花など、自身の表現したい「もけもけモンスター」の生息場所や属性などの設定をしていくだろう。「暗い海に生息する幻の深海もけもけモンスター」であれば、うろこを表現しようと、紙をくっつけた粘着シートを丸くちぎってずらしながら重ねてみたり、「花畠に住むカラフルな妖精モンスター」であれば、裁断した紙の中に混ざっている色付きの紙を見て、花を表現できるように色を分けてくっつけようと試みたりするなど、設定を軸として創発的な表現を行っていくだろう。このように、材との対話を通して造形的な視点を働かせ、即興・創発的に表現しながら、試行錯誤を経て主題を表していく。「森の中だから緑系の紙はないか？」「青や水色の紙があれば海のもけモン感が出せそう」等、表現したいものが明確になっていくと、形だけでなく色にも目を向けて発想を広げていくだろう。そこで、島への漂着アイテム①裁断された色付きの紙（カラーもけ）と出合う。色付きの紙を手に入れたことで、自分のおもいがより鮮明に表現できることに喜びを感じたり、「それならもっとこうしたい！」と創発的な表現につながる発想を巡らせたりする子もいるだろう。また中には、つくったものの着脱を繰り返すたびに、形が崩れてしまうといった困難さを感じる子も出てくる。そのため、「服を持ってきてもいい？」「ビニール袋にくっつけて、かぶつたらどう？」といった提案をしてくるかもしれない。

そこで第③④時では、新たな漂着アイテム②レインコート（もけ皮）と、アイテム③紙ひも（もけひも）が届いたことを知る。前回感じていた困り感の解消に向かうことができそうなアイテムと出合うことで、完成までの見通しをもてたり、「フード部分を切って使えば、頭に被るものをつくれるね！」と、表現したいもののイメージを広げていったりする。また、「もけひものビヨンっとした感じを使えば、角いけるかも」といった発想も生まれるだろう。中には、あえてレインコートは使わずに、粘着シートの扱いを駆使して、表現を楽しむ子もいる。制作過程では、「羽をつくりたくて、何枚か重ねてみたけど、なんか羽に見えない」「しっぽをもっともさもさした感じにしたいのに」と、想定外の出来事や、おもい描いていたイメージが納得いくかたちになつていかないもどかしさに直面することもあるだろう。「だったら、ちぎって取り付けてみよう」「この部分はやめて、こっちにつけるようにしよう」等と、材の扱い

い方を見直したり、構想を再検討したりして、自分で一度立ち止まって思考を巡らせ、創発的な表現を生み出していく。また、自ら仲間や授業者に助言を求めて働きかけたり、仲間の制作の様子をのぞいたりして得た気付きを、自分の制作に生かすと積極的に動き出すこともあるだろう。「進化シャワータイム」(交流)を含めた他者とのかかわりを通して、「これだと小さいから羽に見えないかもね。シートを何枚かくつけて大きくしたら、羽に見えるかもよ」等と助言を受け、自分には思いつかなかつた新しい発想と出合ったり、「この端の切れてる部分、毛並み感が出ていいね！あえて？」等、即興的に表現したことに対する価値に気付かされたりすることで、創発的な表現があみ出されていくとともに、自分の中の「なんかいい」「これもありかも」といった感覚が芽生えるだろう。

第⑤時では、第③④時で表現しきれなかった部分や修正箇所に取り組む。制作がひと段落している場合は、制作物を身につけて動いてみたり、仲間に身につけてもらって、つくっている最中には感じなかつたよさや違和感、それに伴った修正箇所を見出したりして、さらなるブラッシュアップをしていく。おもいがかたちになっていく喜びを知り、自分にとって満足のいくもけモン変身グッズができると、みんなに見てもらいたいという意欲も高まるだろう。

第⑥時では、完成したものを披露するもけモン変身コレクションをする。それぞれが主題を表現したものを見出し、ランウェイをする中で、同じ材でも、設定や材の扱い方によって表現の仕方に違いが生まれ、改めて材に対する感じ方や、材を使った表現の多様性にふれるだろう。

本題材で子どもは、材とふれ合う中で見出した素材感と題材名を掛け合わせて、豊かに発想を広げ、主題を見出し、造形的な視点を働かせながら即興・創発的な表現を繰り返して、おもいをかたちに表現していく。その子ならではのおもいを込めた表現をしていく中で、材そのもののよさや魅力を味わい生かす活動を通して、もののもつ可能性に目を向けるきっかけにもなるだろう。また、制作過程では、うまくできた、できないだけで評価をするのではなく、「これはこれでいいかも」「なんかいい感じになったから満足」といった、自分にとっての「いい」や「すてき」といった感覚を広げながら、新たな価値観を広げていくことにつながっていく。今回の材との出合いや、制作経験は、材や制作物を多面的にとらえ、ものをみる視野を広げるきっかけになることを願っている。

5. 題材構想（全6時間扱い／本時は第③④時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ ○教師の働きかけ

① <もけもけ島へようこそ！>

・また遊ぶの？ ・もけもけって、この前使ったやつじゃん

<手紙が届いたよ！もけもけモンスターに変身しよう！>

・何それ！モンスター？やってみたい！

・変身ってことは、自分がモンスターになるってこと？

・もけもけを体につけるってこと？すぐとれちゃうよ？

<こんなものがあるよ 使えるかな？ 試してみよう>

・これならめっちゃくっつきそう ・毛皮みたいになった！

・たまに入る色の紙がいい！ ・簡にしたらしっぽになりそう

・見て！腕輪ができた！ ・ズボンに挟んだらスカートみたい

② <どんなもけもけモンスターに変身したい?>

・土の中にもぐって生活しているもけもけモグラモンスター

・暗い海に生息する幻の深海もけもけモンスター

・花畑に住んでいるカラフルな妖精モンスター

・山の噴火から生まれた溶岩どろどろもけもけモンスター

○もけもけ島の世界に没入できるよう、ストーリー性のある導入を行う。また、主題を見出したり、制作していく際の手がかりになったりするような場を用意する。

○思考を巡らせる際のヒントとなるよう、題材名から受けた印象、材や操作に関連する考え方等を板書に残しておくようとする。

○くっつける材として、粘着シート（白、黒、16cm幅）を提示する。くっつく様子を確認し、何度も試せるようとする。

○おもいをささえるために、ロイロノート上に変身プランを記述できるページを作成し、かかわりに生かす。

<もけもけと、もけシートで 変身だ！>

- ・もけシート、ずらしながら重ねたらうろこに見える？
- ・シート手で切れる！裂いたらどろどろみたいになった！
- ・色付きの紙集めたけど、色が足りない…もっと青ないかな

<アイテムが島に漂着したよ！何かな？>

- ・色きたー！　・カラフルな感じが出せていい感じ
- ・色よりも、いろんな模様が混ざってる方が面白いな
- ・何度も付けてたら形が崩れてきた…壊れちゃう
- ・もけもけをつけたいから、家から服を持ってきてもいい？

③④（本時）<新しいアイテムが漂着したよ！今度は何かな？>

- ・フード部分を切って使えば、頭にかぶるものをつくれる
- ・もけひものビヨンっとした感じを使えば、角いけるかも！
- ・アイテム使わなくても、もけシートで十分いけるな！
- ・羽をつくりたくて、何枚か重ねてみたけど、羽に見えない
- ・しっぽをもっともさもさせたいけど、どうしよう

<もけモン進化シャワータイム！>

- ・シートをつなげて付けたら、羽が大きくなるんじゃない？
- ・この端の切てる部分、毛並み感が出ていていいね
- ・○○さんの耳、すごくいい！取り入れてみようかな。

⑤<変身まで、タイムリミットは1時間 仕上げをしよう>

- ・見て！この肩のもわもわ感がポイントなんだよね
- ・ちょっとこれ着てみてくれる？背中、足りないな。もう少しだけ、もけもけともけひもを足してみよう
- ・走ったらもけもけ取れたけど、取れるのも面白いかも

⑥ <もけもけコレクションを開催しよう！>

- ・モンスターポーズはこれでいこうかな
- ・あのマント、確かにみのむしモンスターに見える！
- ・上靴にかぶせたんだ！かわいくてアイデア面白い！

<もけモンへの変身をふり返ろう>

- ・はじめは、蝶にしようと思って羽をつくっていたけど、友達に妖精？って聞かれて、妖精の方がもけもけを身につけられるし、いいなと思って、変えました。ポイントは、フードから出ているもけひもの耳です。もけひもの曲がる感じが耳にちょうどよかったです。
- ・もけ皮に両面テープで模様をつくって、その上にもけもけをくっつけていったら、トラの模様みたいになったから、もけ島の暗闇に住むもけトラモンスターにしたよ。もけシートでつくったたくさんのしっぽがお気に入りです。

○題材終盤で、制作過程を振り返ることができるよう、ロイロノートを活用した記録時間を設ける。

○題材名を常に意識して制作に取り組めるよう、「もけもけ」や「もけ」という言葉を様々な場面で使う。

○困り感や必要感に応じた新しい材を紹介し、発想の広がりや深まりを促す。

○材の扱いに工夫が感じられたり、困り感のある発言を耳にしたりした際は、適宜全体共有を図り、子どもの新しい気付きにつながるようにかかわる。

○表したいものやおもいを引き出すための問いかけをしたり、表現を価値付けたりして、その子の造形的な視点を磨く契機となるよう、積極的にかかわる。

○発想に広がりが生まれるよう、自身の表現に対して他者からの助言や価値付けを受けたり、他者の表現にふれ、よさを見出したりする交流タイムを設定する。

○ブラッシュアップにつなげられるよう、次時の「もけコレ」を想定し、制作物を身につけて、モンスターとなって動いてみることを提案する。

○「もけコレ」が、造形的な視点を磨いたり、自らの感性を見つめたりする時間となるよう、「面白い」「すてき」「好き」「自分も身につけたい」等のキーワードを視点として提示し、鑑賞に臨めるようにする。